



ストップ温暖化センターみやぎセンター長
MELON理事長
長谷川 公一

ストップ温暖化センターみやぎが発足して20年。初代センター長の北條祥子先生はじめ、事務局を担ってくださった方々、運営委員として関わってくださった方々、地球温暖化防止活動推進員として関わってくださった方々、県の環境政策課の方々のご腐心・ご苦勞に深謝申し上げます。

北條先生のあとを受けて、2代目のセンター長をお引き受けしたのは2004年5月でした。この年は「安倍フェロー」としての在外研究のために6月から翌年3月まで不在、本格的に活動を開始したのは2005年4月からでした。

この16年の間には色々なことがありました。大きく4点振り返ります。

第1は、現在全国に59ある地域センターの代表として、本県にとどまらず、全国のセンターを、各地の仲間とともに牽引してきたことです。2006年7月には、都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会の代表幹事に就任、連絡会の代表として当時の若林正俊環境大臣と面談しました。2009年秋の事業仕分けを契機に、2010年8月に設立された社団法人・地球温暖化防止全国ネットの初代理事長を2019年6月まで務めました。手前味噌ですが、ストップ温暖化センターみやぎは、全国のセンターの代表としての役割を果たしてきました。

第2に、ストップ温暖化センターみやぎの場合、県から独立した、純粋な民間財団が親団体であるという特色があります。59の地域センターは、NPO系のセンターと財団系のセンターに大別され、数もほぼ半々です。NPO系のセンターは、気候変動対策のために新たに設立された専門店型が多く、財団系は県の外郭団体の場合が多いのです。みやぎ・環境とくらしネットワーク(MELON)のように、純粋に民間の公益財団法人が親団体となっているケースは、現時点でもなお、全国的に珍しいのです。したがって財政状況にはずっと厳しいものがあります。今日あるのは、財源不足の中で、長年努力してこられた事務局スタッフの方々の労苦の賜物です。

第3は、色々なイベントを企画してきたことです。2007年から9年にかけての「エコdeスマイルコンテストみやぎ」はとくに印象的です。全都道府県で開催された「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」の宮城県予選でもありました。事業仕分けの影響で宮城県予選はなくなりましたが、全国大会の「ストップ温暖化「一村一品」大作戦」は、その後「低炭素杯」、2019年度からは「脱炭素チャレンジカップ」と名称を変えて、現在も続いています。2014年の低炭素杯では、宮城県のウジエ・スーパーさんが見事、最高賞の環境大臣賞グランプリに輝きました。宮城県の団体や高校は、毎年のように好成績をおさめています。

第4は、運営委員会を開催し、地球温暖化防止活動推進員を養成し、出前講座を行ったり、うちエコ診断を継続したり、地道に活動を継続してきたことです。

世界的に見ると、気候危機への対策の前進を支えているのは非国家アクターの力にほかなりません。世界に例を見ない、1997年の京都会議(COP3)が生み出した地域センターという日本独自の仕組みを、宮城県で体現してきたのが、私たちストップ温暖化センターみやぎです。この記念誌の1行1行が、1頁1頁が、1歩1歩が、私たちの汗と涙の結晶です。

引き続き、ご支援・ご声援をお願いいたします。